

中学生の部活動に対する意識と自主性との関連

—— 中学生と教育学部四年生の実態調査から ——

多 原 祐 夏・古 田 貴 久

Relationships between awareness toward club activities and degree of initiative in junior high students:

A survey on junior high students and seniors at a teachers training college

Yuka TAHARA, Takahisa FURUTA

中学生の部活動に対する意識と自主性との関連

—— 中学生と教育学部四年生の実態調査から ——

多原 祐夏¹⁾・古田 貴久²⁾

1) 伊勢崎市立宮郷第二小学校

2) 教育学部技術教育講座古田研究室

(2017年9月27日受理)

Relationships between awareness toward club activities and degree of initiative in junior high students:

A survey on junior high students and seniors at a teachers training college

Yuka TAHARA¹⁾, Takahisa FURUTA²⁾

1) Miyago Daini Primary School, Isesaki, Gunma

2) Furuta Lab., Technology Education Dept., College of Education

(Accepted September 27th, 2017)

あらまし

中学生が部活動に対して求めるものと、自主性・自発性の高さとの関係を、5件法で評価する質問紙調査を中学生に実施し検討した。また、同じ質問項目を教員養成系学部 of 4年生に実施し、大学生が考える、中学生が部活に求めているであろう度合いとの比較を行った。中学生の結果から、部活動を自主的に行っていると感じている生徒は、部活動そのものを楽しみながら、他人との協調性や精神面で成長したいという感覚を持っていることが明らかになった。また、大学生の結果との比較から、中学生は、教職課程在学中の大学生が考える以上に、部活動に対してこのような期待を抱いていることが示唆された。中学生自身が求める部活像は、「生きる力」の3要素の1つ、「豊かな心」と、とてもよく一致することがデータから示された。

はじめに

中学校の課外活動である部活動は、中学校学習指導要領（文部科学省，2008）で、「生徒の自主的・自発的な参加によって行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませて、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること」とあるように、生徒の自主性、自発性の育成を1つの主要な役割としている。

このような、生徒の自主性・自発性の育成は、日本の学校教育が目標とする「生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和）」の育成の一部をなしている。

これまでにも、数多くの中学校の部活動に関する意識調査・実態調査が行われてきた。石田・亀山（2006）は、「部活動への意欲が高まると、学習意欲が高まる」という仮説の検証を試みた。その結果、逆向きの因果関係、すなわち、学習意欲を高めることで、部活動意欲が高まると考えるべきである可能

性が示唆された。小野・庄司（2015）では、中学校・高校生の部活動における先輩・後輩の関係構造について明らかにするため、学年・性別・部活動タイプ・部活動レベルに分けた調査を行った。その結果、最も低学年である1年生が、他の学年よりも先輩の影響を受けやすいことが示された。また、中学生女子は、先輩後輩関係における規律性が高いという結果が得られた。さらに、目標を設定していない、あるいは競うことを目標としていない部活動では、明確な先輩後輩関係がなく、ゆるくフラットな人間関係であることが示唆された。

ここでは2つの先行研究しか挙げなかったが、ほとんどの先行研究は、もっぱら部活動と学業面との関連性と、部活内の人間関係を扱っており、生徒の自主性・自発性を扱ったものがきわめて少ない。しかしながら、前述のように中学校の部活動が、学校教育の一部として、生徒の自主性・自発性の育成を担っているのであれば、生徒自身が部活動に対して、自らの自主性・自発性の面からどの程度積極的・肯定的にとらえているか、そして、そのような積極性は、中学生自身が部活動に対して抱いているどのような思いと結びついているかを明らかにすることは、部活動の指導の在り方を考えていくうえで有用であるといえる。さらに、中学生が部活動に対して何を求めているかを明らかにするだけでなく、そのような生徒の思いを、これから教師になろうとする教職課程の大学生がどれだけ関心を持ち、理解できているのかは、今後、彼らが部活動指導に関わっていくことを考えると、有益な情報だといえる。それというのも、一般に、人間には、他人も自分と同じようにものごとを考える傾向があり（Epley 2014/2017）、中学生時代に団体種目の運動部に所属して積極的な中学生時代を過ごした大学生は、他の大学生も、部活動に対して自分と同じような思いを抱いていたと考えがちで、自分の認識が必ずしも他人には共有されていないことを知るとたいそう驚く。

以上から、本研究では、中学生と大学4年生が中学校の部活動に対して求めるものと自主性・自発性の自己評価の比較を通して、中学校部活動が人格形成に与える影響を検討する。

方法

本研究では、中学生と大学生に、中学校の部活動に関して、どのようなことを求めてその部活に所属したのか動機や、その部としての活動状況などについて、先行研究が用いた質問項目を参考にしながら作成した質問紙に、「とても当てはまる」、「まあ当てはまる」、「どちらともいえない」、「あまり当てはまらない」、「全然当てはまらない」の5件法で回答してもらった。なお、以下の統計処理では、「とても当てはまる」～「全然当てはまらない」を5～1とした。

質問紙

中学生には、「部活動に入部した動機」、「部活動の現状」、「自分自身の現状」、「部活動に求めるもの」、「学校の様子」、「自分自身の部活動への取り組み具合」の、6部で構成した質問紙を用いた。運動部と文化部とで同一の質問が妥当でないことがあったので、運動部生徒用（全45項目）と文化部生徒用（全41項目）の2種類を作成した。質問項目の一覧を附録に示す。

「入部の動機」（1項目）は7択とした。「部活動の現状」（運動部12項目、文化部13項目）は、澤口・関岡（2003）を参考にして、部活の雰囲気を探ねた。「自分自身の現状」（運動部8項目、文化部6項目）は、自分自身について、入部前と比べて協調性や自主性などが変化したかを尋ねた。「部活動に求めるもの」（運動部20項目、文化部17項目）は、石田・亀山（2006）を参考にして、どのような部活動であってほしいと思うかを尋ねた。「学校の様子」（3項目）は、自分の通う中学校について、勉学面、部活動面について尋ねた。「部活動への取り組み具合」（1項目）は、自分自身がどの程度積極的に部活動に取り組んでいるかを尋ねた。

大学生には、「中学生が部活動に求めるもの」と「部活動指導への取り組みたいレベル」の2部から構成した質問紙を実施した。このうち、「中学生が部活動に求めるもの」は、運動部に所属する中学生向け質問紙の「部活動に求めるもの」と同一であり、大学生には、中学生が部活動に対して何を求めている

と思うかを考えて、中学生とおなじ5件法で回答してもらった。「部活動指導への取り組みたいレベル」、将来、教職に就いたとき、部活動指導に力を入れたいと思う度合いを4段階で答えてもらった。

回答者

中学生の回答者は、群馬県前橋市内の公立中学校の1・2年生226名（男子112名、女子114名）であり、大学生の回答者は、群馬大学教育学部4年生103名（男子56名、女子47名）である。どちらも調査は、2016年12月下旬に実施した。

調査手続き

中学生は、クラスごとにホームルームの時間中に、学級担任に配布してもらい、実施した。回答時間に制限は設けなかった。

大学生は、すべての教科系学生を対象とし、教科系ごとに代表者を決めて、人数分の質問紙を渡し、調査の実施と回収を依頼した。

結果

部活における自主性と関連する要因

中学生から回収したデータについて、質問項目ごとに平均値と標準偏差を求めた。その結果、多くの項目で天井効果が発生している可能性が高かったので（田中，1996）、分析ではノンパラメトリック法であるSpearmanの順位相関とMann-WhitneyのU検定を用いた。また、相関係数の検定は、通常は相関係数がゼロとはいえないかどうかの検討であるため、効果量の議論では、その基準では不十分であると指摘されている。本論文ではCohen（1992）を考

慮して、絶対値で0.4以上のものを有意であるとした。

生徒の自主性に関する項目は、質問紙「自分自身の現状」部の、「自分自身、自主練習を積極的に行っている」、「入部前より、学校生活や日常生活において自主的に行動できるようになったと思う」、「顧問の先生に頼るだけではなく、自分たちで部活動を築くことは大切であると思う」の3つである。これら3項目の1つ以上と相関係数が有意であった質問項目は、「入部前より、精神的に強くなったと思う」、「入部前より、協調性が身についたと思う」、「部活動には、積極的に取り組んでいる」、「部活動は、精神的に強くなれるものがあると思う」、「部員同士の人間関係を大切にしたいと思う」、「部活動と勉強の両立は大切であると思う」の6項目であった。このことから、部活動を通した自主性の成長には、精神面、協調性、積極性などの、「精神的な成長」と「人間関係の充実」の2つの成長が関わっていると考えられる。

次に、自分の自主性を総体的に高く評価した生徒と、低く評価した生徒の違いを検討するために、生徒ごとに自主性に関する3項目の平均値を求めて降順に並べ、自主性が高い上位1/3の生徒と低い下位1/3の生徒を抽出した。その上で、これら上位群と下位群との間で、平均評定値に5%水準で有意差がある質問項目を、質問項目全体から探した。結果を表1に示す。

この結果から、生徒が、自分は自主性が高いと感じることには、精神的な成長の実感に加えて、活動に楽しさを感じていることが関連していると言える。

表1 自主性の高低で有意差が認められた質問項目

項 目	平均値 (SD)	U 値	Sig.
入部前より、精神的に強くなったと思う	高自主性群：4.50 (0.78) 低自主性群：2.91 (1.19)	341.5	.000
入部前より、協調性が身についたと思う	高自主性群：4.45 (0.76) 低自主性群：3.08 (0.91)	337.5	.000
部活動は楽しい	高自主性群：4.60 (0.70) 低自主性群：2.79 (1.29)	313.5	.000
練習には、楽しさが必要であると思う	高自主性群：4.54 (0.70) 低自主性群：3.92 (0.95)	843.5	.002

表2 運動部・文化部間で有意差が認められた質問項目

質 問 項 目	平均点 (SD)	U 値	Sig.
上下関係が厳しい部活動である	運動部：2.43 (1.20) 文化部：3.48 (1.17)	632.5	.000
練習メニューは、部員たちで決めて活動している	運動部：2.65 (1.27) 文化部：1.52 (0.81)	582.0	.000
練習量が多すぎると思う	運動部：2.53 (1.08) 文化部：3.29 (1.15)	757.0	.006
練習日数は、少なくとも週に1回は休みがあるほうが良いと思う	運動部：4.19 (1.18) 文化部：3.43 (1.08)	704.0	.001

すなわち、自主性の高い生徒たちは、部活に対して、活動そのもの楽しさ・おもしろさを感じている内発的動機づけの高い状態（市川 2001）にあると言える。つまり、自主的に活動していると感じる生徒は、内発的動機づけの高さに加えて、他人との協調性や精神面で成長したという感覚を、部活を通じて体験していると考えられる。

運動部と文化部の違い

前節の結果から中学生は、全体として、部活動における自主性の度合いが、活動の楽しさや精神的成長と関わっていることが示唆された。しかしながら、

運動部と文化部では活動の内容が大きく異なる。運動部は文字通り運動であり、多くの部活は勝負を争う試合を行う。それに対して、文化部では創作活動が主であり、コンクールがある吹奏楽部を除くと試合や競争というものがほとんどない。このため、生徒が部活動に望むものも異なる可能性が高い。ここでは、中学生の、文化部と運動部への思いの違いを明らかにするため、質問項目ごとに平均評定値を比較した（表2）。

この結果を見ると、運動部の生徒のほうが練習メニューを自分たちで決めており、感じており、現状

表3 中学生と大学生間で有意差が認められた質問項目

項 目	平均値 (SD)	U 値	Sig.
部長やキャプテンは部員同士で決めたほうが良い	大学生：3.61 (0.96) 中学生：4.09 (1.05)	6689.0	.000
部活動は部員たちで楽しく活動することが大切である	大学生：3.87 (0.92) 中学生：4.51 (0.73)	5663.5	.000
練習には厳しさが必要である	大学生：3.77 (0.92) 中学生：4.00 (0.97)	7950.5	.024
練習には楽しさが必要である	大学生：4.17 (0.77) 中学生：4.41 (0.72)	7730.5	.007
部活動は精神的に強くなれるものがある	大学生：3.87 (0.98) 中学生：4.11 (0.97)	8019.0	.032
部活動は体力的に向上できるものがある	大学生：3.93 (0.94) 中学生：4.48 (0.79)	5971.5	.000
部活動では、実践練習が大切である	大学生：4.27 (0.74) 中学生：4.40 (0.84)	8181.0	.048
部活動では、シーズンに合わせた練習が大切である	大学生：4.15 (0.79) 中学生：4.29 (0.89)	8131.5	.044
顧問の先生に頼るだけでなく、自分たちで部活動を築くことは大切である	大学生：4.28 (0.81) 中学生：4.60 (0.56)	7353.0	.001

の練習量が特に多いとは思わないものの、適度な休みも欲しいと感じている様子がうかがえる。また、上下関係は運動部よりも文化部において厳しいと捉えられており、練習量が多すぎると感じている面もあるようである。

部活に対する中学生と大学生の意識差

これから教育現場に携わろうとする教育学部4年生と、中学生との間に、部活動に関する意識の差はあるのか、あるとしたら、どのような点で異なっているかを検討した。中学生に実施した、部活動に求めるものに関する20項目と、大学生に実施した同じ20項目（ただし、大学生には、中学生は何を求めていると思うかを推測して答えてもらった）の平均評定値を比べたところ、表3に示す9項目で5%水準で有意差が認められた。これらすべての項目において、中学生の評定値が大学生よりも高かった。

有意差が認められた9項目を、中学生が高い値をつけたものから順に並べてみると、中学生は大学生が想像する以上に部活動に楽しさを求めつつ、自分たちで主体的に活動して、精神的・体力的に成長することを期待している様子が示唆される。

考察

本研究では、部活では、部活に対する内発的動機づけと自主性が密接に関連していること、そのことが、協調性や精神的成長といった、生徒の人格面と好影響を持っている可能性が示唆された。また、中学生は、教職課程にいる大学生（7～8年前は彼ら自身も中学生）が想定する以上に、部活に楽しさと厳しさに加え、自分自身の精神的成長を求めていることが今回の結果から伺えた。

これらの結果から考えられることは、中学生は自分たちの興味・関心を伸ばせる環境を部活に求めており、そのような環境であるほど、生徒たちの自主性や協調性は育ちやすいし、生徒自身もそうなることを望んでいる、ということである。このような、自主性や協調性は、「生きる力」の3要素の1つである「豊かな心」に相当するが、今回のデータからは、中学生は部活動を通じて、自分のそのような面

を伸ばすことを望んでいることがうかがえる。

部活動は、学校教育課程では、生徒会活動などと同じ、いわゆる課外活動として、生徒の人間の成長に資する位置づけがなされている。部活は、基本的に生徒が自分の興味関心に応じて選ぶものだが、選択が自主的に行われるだけではなく、活動内容を厳しいながらも楽しいと感じること、技能的、精神的に成長し、他人との協調性が身についてきたと感じることが、生徒の自主性の成長と深くかかわっているようである。同時に、部活動は、学校教育において教科指導と同程度に重要であることの裏付けと、生徒の内発的動機に基づくという望ましい特性があることを、生徒自身が示していると言える。

本研究では、文化部において、運動部よりも、上下関係（先輩後輩関係）が厳しい部活であると認識している様子が示された。上下関係が強く意識されるのは、一般に、運動部においてであろう（小野・庄司，2015）。そして、運動部の先輩後輩関係では、「体罰」や「しごき」のようなネガティブな側面と関連することが問題とされる（運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議，2014）。

本研究で、これらに関する項目の評定平均値は、運動部が2.55で、文化部が3.00である。評定値の範囲が5～1であることを考えると、文化部が高いというより、運動部が低いというべきであろう。これは、今回の調査対象となった運動部の生徒は、部活動を楽しんでいることを考え合わせると、上下関係の厳しさを当たり前のこととして受け止めていて、とくに厳しいとは感じていないからかもしれない。もし、そうであるとすれば、今回の結果は、先輩後輩関係の厳しさと、体罰やしごきなどの問題事象は、区別して考えることを示唆するものと考ええる。今回の調査対象校のように、健全な上下関係が実現されている部活を対象として、そのような部活を成立させる条件を明らかにしていくことは、今後の重要な課題であると考ええる。

謝辞

調査の実施をお引き受け下さった、群馬県前橋市立中学校に感謝する。

文献

- Cohen, J. (1992) A power primer. Psychological Bulletin, 112(1), 155-159.
- Epley, N. (2014) Mindwise: How we understand what others think, believe, feel, and want. (波多野理彩子訳, 人の心は読めるか. 早川書房, 2017)
- 市川伸一 (2001) 学ぶ意欲の心理学. 東京: PHP 研究所.
- 石田靖彦・亀山恵介 (2006) 中学校の部活動が学習意欲に及ぼす影響 一部活動集団の特徴と部活動への意欲に着目して. 愛知教育大学教育実践総合センター紀要, 9, pp.219-225.
- 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領総則
- 小野雄大・庄司一子 (2015) 部活動における先輩後輩関係の研究 一構造、実態に着目して一. 教育心理学研究, 63, pp.438-452.
- 澤口裕太・関岡康雄 (2003) 運動部活動における活動意識に関する研究: 中学校運動部活動参加者を対象として. 仙台大学大学院スポーツ科学研究科研究論文集, 4, pp.41-47.
- 田中 敏 (1996) 実践心理データ解析・改訂版. 東京: 新曜社.
- 運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議 (2014) 運動部活動の在り方に関する調査研究報告書～一人一人の生徒が輝く運動部活動を目指して～. 文部科学省

附録: 質問項目一覧

項目	対象回答者		
	運動部	文化部	大学生
「部活動の現状」			
顧問の先生は、生徒の技術や能力に合わせた内容の練習メニューを組んでいる	○		
顧問の先生は、部員一人ひとりに合わせた指導をしている		○	
顧問の先生を信頼している	○	○	
顧問の先生や部員に注意をされても気にしないほうである	○	○	
悩みを話せる友人が、部員の中にいる	○	○	
部活動のミーティングでは、部員全員が積極的に意見を言っている	○	○	
上下関係の厳しい部活である	○	○	
部員の中に、良い仲間がいる		○	
練習メニューは部員たちで決めて活動している	○	○	
練習量が多すぎると思う	○	○	
部活動は楽しい	○	○	
部員との仲が良い	○	○	
部活動と勉強の両立ができていていると思う	○	○	
部活動での経験は、将来の役に立つと思う	○	○	
「自分自身の現状」			
自分が所属する部活動のスポーツ技術が向上するとうれしく思う	○		
自分の技術は、入部したころに比べて上達したと思う	○		
自分自身、自主練習を積極的に行っている	○	○	
入部前より、精神的に強くなったと思う	○	○	
入部前より、体力が向上したと思う	○		
入部前より、学校生活や日常生活において自主的に行動できるようになったと思う	○	○	
入部前より、協調性が身についたと思う	○	○	
部活動で、自分自身の技能が向上したり、できることが増えるとうれしく思う		○	
現在所属している部活に入ってよかったと思う	○	○	

項目	対象回答者		
	運動部	文化部	大学生
「部活動に求めるもの」			
顧問の先生は、いざという時に手助けをしてくれる人であってほしいと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
顧問の先生は、話しやすい人であってほしいと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
悩みを話せる友人が、部員の中にいるほうが良いと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
仲の良い友人が、同じ部活動にいたほうが良いと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
上下関係は、厳しいほうが良いと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
部員同士の人間関係を大切にしたいと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
部長やキャプテンは、部員同士で決めたほうが良いと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
部活動は、部員たちで楽しく活動することが大切であると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
練習日数は、少なくとも週に一回は休みがあるほうが良いと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
活動メニューは、部員同士で決めたほうが良いと思う		<input type="radio"/>	
部活動は、試合に勝つことが大切であると思う	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
練習には、厳しさが必要であると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
練習には、楽しさが必要であると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
部活動では、実践練習が大切であると思う	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
部活動では、シーズンに合わせた練習が大切であると思う	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
部活動は、精神的に強くなれるものがあると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
部活動は、体力を向上できるものがあると思う	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
部活動は、無理せず自分のペースで活動できるものがあると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
部活動は、友人と良い思い出を作ることのできるものがあると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
部活動と勉強の両立は、大切であると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
顧問の先生に頼るだけでなく、自分たちで部活動を築くことは大切であると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
「学校の様子」			
この学校は、部活動に力を入れていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
この学校は、勉学に力を入れていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
この学校は、学校行事に力を入れていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
「自分自身の部活動への取り組み具合」			
部活動には積極的に取り組んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
「部活指導に対する意欲」			
部活動指導に力を入れたいと思う			<input type="radio"/>

